

防犯設備士養成講習・資格認定試験開始20周年 記念行事

防犯設備士誕生 20周年今昔を語る



防犯設備士委員会 委員長 平野 富義

公益社団法人日本防犯設備協会が国家公安委員会認定事業として第1回防犯設備士養成講習と資格認定試験を開始したのが平成4年2月であった。それから早20年が経過し、去る3月29日(金)協会近くの神明いきいきプラザ4F集会室で約40名が出席し和やかに記念行事が執り行われた。

防犯設備士養成講習と資格認定試験がスタートしたときの事務局長、黒田守彦様にも遠く大阪から駆け付けていただいた。

当日は、先ず第1部「20周年今昔を語る」、第2部で懇親会を実施した。

第1部 「20周年今昔を語る」

服部範雄代表挨拶	15:00より10分間
加藤義雄初代委員長 防犯設備士委員会並びに制度立ち上げについて	15:10より30分間
平野より 写真で綴る防犯設備士	15:40より40分間
松尾たけし副委員長 防犯設備士更新制度について	16:20より20分間
石井秀博養成講習講師 3.11津波被災自宅の復興状況報告	16:40より15分間
横山佳夫元常任理事 締めの挨拶	16:55より 5分間

第2部

17:50より浜松町駅近くの「楽蔵うたげ」にて懇親会を実施、黒田守彦元事務局長の挨拶に続き宴に入った。

第1部の加藤初代委員長の防犯設備士委員会立ち上げについてでは、委員会立ち上げ当時の苦労話から制度立ち上げまでのお話をいただいた。

当委員会は、昭和61年6月制度の構築と運用推進を担当する施行部会の技能検定・テキスト委員会(昭和63年6月より制度事業部会、防犯設備士委員会に変更)委員長に加藤義雄氏が着任された。8月28日、最初に研修に必要なテキストづくりの検討からスタートした。防犯設備士養成講習用テキストは、防犯設備士養成講習と資格認定試験スタートより2年前に完成していたが、養成講習と資格認定試験は遅々として進まなかつた。初版のテキストは、執筆から編集まで全て委員会委員の手作りでボランティアとして作成されたのである。

特集

「防犯設備士資格認定試験」及び「防犯設備士養成講習」実施される



【東京地区】

- 講習会時：平成4年2月22日(土)
15時～17時
- 講習会時：平成4年2月23日(日)
15時～17時
- 試験会時：平成4年2月24日(月)
15時～17時
- 試験会時：平成4年2月25日(火)
15時～17時
- 実施場所：東京ビジネス・オブ・スクール

【大阪地区】

- 講習会時：平成4年2月27日(木)
15時～17時
- 講習会時：平成4年2月28日(金)
15時～17時
- 試験会時：平成4年2月29日(土)
13時～17時
- 実施場所：大阪けいき会館

- 2 -

(1992陽春号記事)

『防犯設備士制度』は平成3年12月17日付国家公安委員会告示第6号「防犯設備及び管理に関する知識及び技能の審査証明事業認定規程」を受けて、同年12月26日当協会の事業認定という順序を経て、二代目三好敏夫会長（松下電工社長、今は故人）、黒田守彦事務局長（松下電工より出向）の時、防犯設備士養成講習と資格認定試験がスタートした。

第1回東京地区会場は、平成4年2月22日、23日、東京ビジネス・オブスクールで、大阪地区会場では、2月27日、28日大阪警察会館で実施された。

開始2～3回くらいは講師が1編成しかいないこともあり東京と大阪、日を変えて実施していた。ところが、たとえ1分でも試験開始時刻が違っても東京、大阪で同じ試験問題を使用するわけにはいかない。しかし、試験問題を作成するのに大変時間を要したこともあり、すぐに養成講習講師をもう1編成増やし養成講習と資格認定試験を東京、大阪同日、同時刻スタートとした。

因みに、スタート時の6人の講師は合宿して講義の練習を行い、警察庁技官の前で実際に講師を務め一人一人チェックを受けたのである。

当初は、受験生を会員会社から何人か強制的に出していただき会場を埋めていた時期があった。また養成講習はOHPを使用していた関係で講師二人一組で行っていた。一人は演壇で講義、もう一人は2台のOHPを操り、講義の内容に合わせOHPフィルムの入れ替えをしていた。昼食後、部屋を暗くし講義をするため、生徒も眼気を催しこっくりこっくりはじめる者が出でくる。同じくOHP担当の講師までがうつらうつらし始め講師が次のOHPフィルムを待っているのになかなか出てこないといったこともあった。OHP方式が為す技で今ではPC+プロジェクタで実施している今は懐かしい限りである。

第1回と第2回の養成講習講師は防犯設備士の資格を取得しないまま講義を担当した。第2回目の試験の際、二人の講師以外試験問題担当を外れ、養成講習の講師を務めた後、受講した受講者と同席で資格認定を受験したのである。一般受験者が怪訝な顔をしていたのが今も忘れない。

第1回、第2回は、東京大阪で行ったが、第3回は東京と名古屋、第5回は札幌と福岡、第9回は仙台と広島と、だんだん各地でも実施するようになった。

一方、第1回及び第2回の試験で合格された防犯設備士を対象に防犯設備士の「更新講習」も平成8年12月13日に東京で、平成9年3月14日には大阪で実施した。

話は変わるが、平成14年には刑法犯の認知件数が全国で285万件を超えた。大阪では平成13年がピークであった。この頃から防犯設備士の受講・受験者が増え、平成17年6月第50回大阪会場では423名が受講・受験した。ワンフロアに入りきれないで4フロアを使い9階の会場で講師が講義を行い、残り3フロアには講師の映像とPPの画面を配信して対応した。このときは男子トイレが休憩時間中には用を足せず講義時間に影響が出る有様だった。受験者も多く、抽選で2度も3度も抽選漏れし、なかなか受けられなかった人も出るようになった。今から思うと夢のようである。

防犯設備士資格認定試験、
養成講習について 平成4年度総括報告

平成4年度の防犯設備士資格認定試験、並びに養成講習は、1月23日の東京開催を以て無事終了しました。講師、試験問題担当者を始め関係者の方々のお陰であると、誠心より感謝致します。経総につきましては、会報で逐一ご報告している通りですが、総括しますと下記の通りです。毎回実施した受講者へのアンケートや一般（会員外）からの登錄、受講希望者が定員（100名）の7.5倍にになっていることなどを勘案して来年度の実施計画に反映していかたいと思います。

〔実施状況〕

実施回	年 月	場 所	合格者	通 用
1	平成4年2月23日	東京	98名	
	同日	大阪	81	平成3年度小計 179名
2	平成4年3月26日	東京	114	
	同日	大阪	98	
3	平成4年4月10日	名古屋	96	
	同日	東京	110	
4	平成4年4月11日	大阪	99	
	同日	東京	97	平成4年度 小計 614名
合	計		793名	

写真：第4回大阪会場
平成4年3月26日～30日
大阪市中央区文化会館



(1993新年号記事)

委員会レポート

回を重ねるごとに増え続けた防犯設備士も平成17年には1万人を突破、同年12月1日グランドアーク半蔵門富士西の間で行われた平成17年度制度事業部会総会開催時の防犯設備士1万人突破記念パーティでは、警察庁生活安全企画課神山課長様、社団法人全国防犯協会連合会の松原専務理事様、麗澤大学国際経済学部教授大貫啓行様らをお迎えし、防犯設備士第1号の加藤初代委員長と1万人目の鳥原真利子様との対談が行われた。

平成16年に防犯性能の高い建物部品が誕生したのをきっかけに防犯設備士にもこの勉強をしてもらうこととなり、防犯設備士養成講習用テキストにも錠前の基礎知識と防犯ガラスの基礎知識を追記することとなり、養成講習での講義、資格認定試験にも出題されることになった。

これまで、5科目の養成講習を行ってきたが、現在は防犯の基礎と電気の基礎は事前提出レポートで勉強していただことになりこの二科目は現在講習は行っていない。この事前提出レポートは受講生から大変好評で何処を重点的にどのように勉強すればいいのかが解るので大いに助かっているということで、皆さん真剣に取り組んでいただいているようだ。お陰で、これまで養成講習会場へ来るまでテキストを全く開いたこともない受講生が居たようですが、さすがそれはなくなり防犯図記号も事前に覚えて来て講習に望むので理解が早くなつたようである。

さらに、防犯設備士の更新制度を復活することになり、その対象者となる防犯設備士養成講習と資格認定試験、第82回が去る6月7日、8日に全国4会場で実施された。更新時の講習も現在準備中である。

このような変遷を経て防犯設備士は現在23,452名(平成25年3月末現在)誕生している。地域協会も38都道府県に誕生している。今後防犯設備士に対する社会からの期待がますます高まつてくるものと考えられる。防犯設備士皆さまのご活躍を大いに祈念している次第である。

委員会へ参加のお願い

当協会では、正会員の皆様からの参加者によって委員会を構成し、防犯機器の調査研究や防犯設備に関する技術基準の策定など、各種の委員会活動を展開しております。

現在、参加いただいている正会員の方々にも新たな委員として積極的に参加・活動していただきたく、新委員の募集をいたしております。(委員会は34頁をご参照ください。)

参加ご希望の方は、協会事務局または各委員会までご連絡ください。